

YU シェアハウス経由山大スクールバス

	代表者	森田 彩貴 (国際 B4 年)			
構成員	中村 咲良 (国際 B3 年)	蒲原 奈々子 (国際 B3 年)	吉本 陽氣 (国際 B3 年)		
	林 高輝 (国際 B3 年)				他 6 名

1. 本プロジェクト発足経緯

私達は自分達が留学していた際、これから生活するまだ慣れていない状況の中、現地の学生達に親身に助けてもらったので、今度は私達が山口県に帰ったら留学生をサポートしてあげたい、という思いでこのチームが発足しました。しかし山口大学内には留学生をサポートするチームや団体はたくさんあります。その中でまだ解決できていない点は何か探した結果、「交通手段」と「1年間で引っ越す」という点に注目し二つの活動を行いました。

2. 活動内容

2.1 スクールバスチーム立ち上げ

まず初めにパンフレットを作りました。パンフレットを見た人に何を伝えたいのかを考え、さらに留学生、日本人学生両方の学生の心を掴めるようなデザインを重視したものをみんなでアイデアを出し合いながら作りました。また、スクールバスチーム立ち上げに関して私達の活動を様々な人に知ってもらうためのパーティーを開催しました。大学付近で場所を借りました。様々な人に気軽に参加してもらえるようなイベントにしたいと思い、留学生や山口大学の学生などに向けて告知をしていきました。このパーティーには、留学生はもちろん、山口大学の学生から大人まであらゆる人を招待し、私達の活動についてプレゼンテーションも行いました。結果、多くの留学生に知らせることができました。その中で、留学生とスクールバスの話で盛り上がり、スクールバス運行に対する留学生の期待の高さを実感しました。このパーティーによって直接留学生と話し合うことができ、何より私達の活動を知ってもらういい機会になりました。留学生と話す中で、この活動を行う意義を感じることもできました。



図1 立ち上げパーティーの様子

2.2 「YU シェアハウス経由山大スクールバス」

① 山口大学の現状

現在山口大学には留学生用の寮は二つあります。一つは山口大学の中にありますが、もう一つは「モチモパスタ山口湯田店」の近くに「YU シェアハウス」という寮があります。そこから大学までは、自転車で約 20 分、雨の日など歩くと 40 分ほどかかってしまいます。留学生にはどちらの寮がいいか選ぶことはできません。また大学に行ける既存のバスの最寄り駅は「来来亭山口湯田店」の近くです。寮からかなり離れているため、既存のバ

スを利用しては留学生は少ないこともアンケート調査によりわかっています。留学生の授業を担当している先生のお話より「雪の日など天気の悪い日は1コマ目に来ない学生が増えてしまう」と聞き、スクールバスをなんとか実現させることはできないかと取り組みは始まりました。

② 活動内容

スクールバスを運行させることに関して全く知識がなかった私達はまずバスを運行させるための知識集めと先行事例調査として、バスを借りるために必要な費用、バスを貸してくれる会社調査、既存のバスルート調査を行いました。バス会社に交渉すればできるであろうなどと浅はかな考えを持っていた私達でしたが、バスを1日借りただけで約70,000円かかることがわかり、スクールバスを運営するためにかかる費用の多額さ、難しさを知りました。スクールバスを実現させるためには本プロジェクトのみの活動ではなく学校を巻き込まないと難しいということが判明しました。そこで留学生センターに相談したところ、留学生センターが冬季だけ「YUシェアハウス」から大学までのバスの運行を開始するとのことでした。また留学生センターから、過去にバスの乗り方講座など留学生向けに実施していたが忙しく手が回っていない、という現在の課題もききました。この状況をうけて、今回の本プロジェクトを留学生センターのサポートをすること、そして冬季のバス運営後に留学生の反応を調査しようということに変更しました。2019年12月よりバスの運行が開始されました。多くの留学生が利用するだろう予想されていたバスでしたが、予想とは裏腹にスクールバスの利用者は約3名程度でした。留学生センターの意見としては「利用する学生が少ないなら来年からは中止しようと考えている」というお話をきき、本当にニーズがないから留学生は利用しないのか調査を行いました。「YUシェアハウス」に住む留学生の割合は国際総合科学部の学生が多いため国際総合科学部の留学生が出席している授業を中心に56名の学生にアンケートを実施しました。すると、バスのニーズがないわけではなく留学生の利用したい時間帯と実際に運行されているバスにズレが生じ需要と供給が一致していないことが判明しました。

③ 改善点と提案

留学生がバスを利用しない理由は大きく分けて二つあり、一つ目はバスが乗りたい時間と全然違う、二つ目は行きで乗っても帰りの時間が合わないといけなく歩いて帰らないといけなく大変、ということでした。費用の関係もあり留学生センターの運営するバスは、朝8時15分に1本、帰りは18時に1本、運行期間は12月から春休みに入るまでです。しかし実際に留学生が必要とする時間帯は2コマ目に間に合うような行きのバスと16時に授業が終わりすぐ帰れるようなバスでした。また授業終わりにバイトに行かないといけなく学生も多く、行きと帰りの本数が1本ずつなので行きでバスを使ってしまうと帰りが歩かないといけなくなるから利用していないという意見も多く上がっていました。利用者が少ないからという理由でバスをなくしてしまうのではなく、「留学生からニーズのある時間帯に変更する」、「本数を増やす」などの改善で利用者は増えると思います。

今回は現在の通学時間より時間を縮めることができる交通手段を探すことに注力してしまいましたが、「大学から寮までの距離が遠い」という点をカバーできるくらい「YUシェアハウス」に住むことの価値を上げ、「遠くてもいいからここに住みたい」という印象に変えていく方法を考えるということもできると思います。

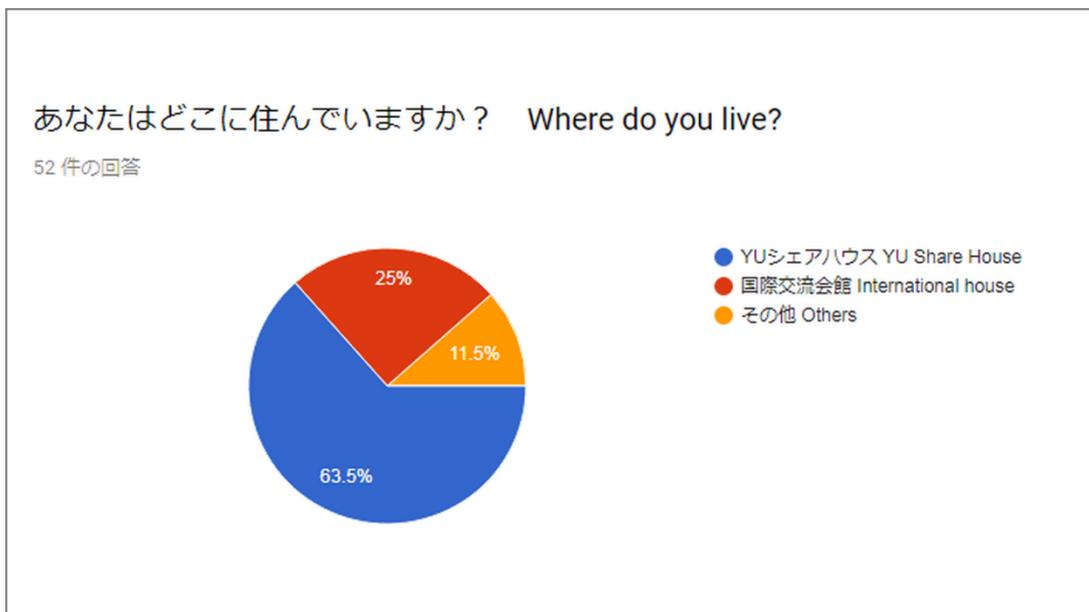


図2 アンケート結果①

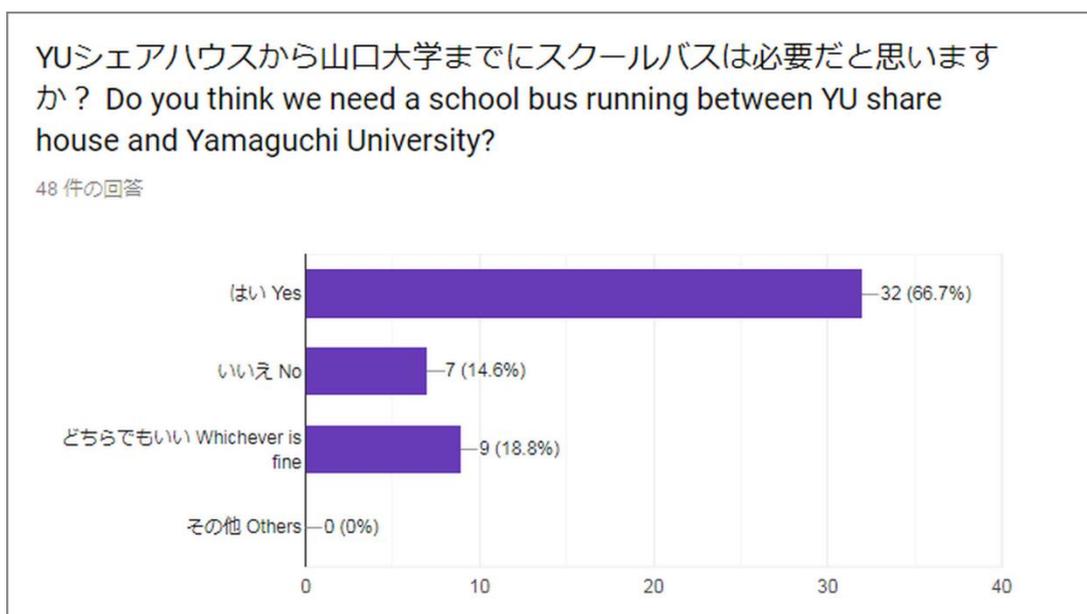


図3 アンケート結果②

2.3 Facebook の活動「ギヴアンドテイク」について

① 山口大学の現状

留学生から滞在期間が短いから要らなくなった物を譲ってもらえる場所があれば教えてほしい、と相談を受けました。海外の大学では要らなくなった物を Facebook アカウントに投稿し欲しい人が貰うというシステムが当たり前のように行われています (図4)。現在はまだこのシステムが山口大学になく、日本人学生もまだ使えるのに捨てるのはもったいないと持て余している人や、引越しの時期になると多くの使えそうな荷物がゴミ捨て場に捨てられているのを目にします。また、欲しい人がいるならあげたいとの意見もたくさん耳にしたので、山口大学でも導入してみようということになりました。

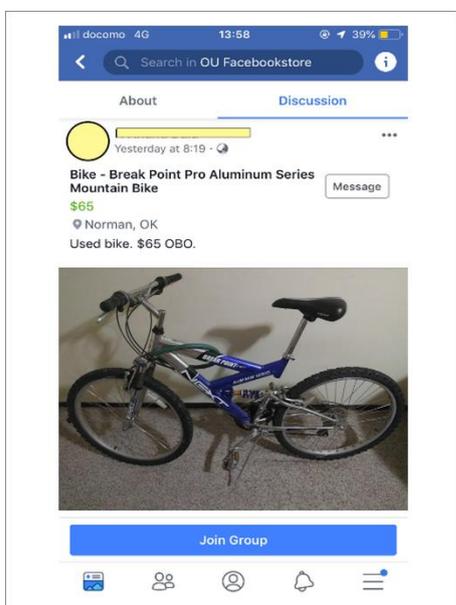


図4 アメリカの大学の Facebook ページ例

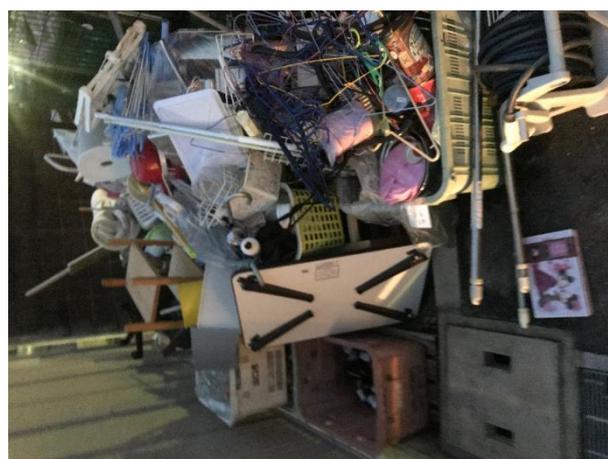


図5 引っ越し時のゴミ捨て場

② 活動内容

Facebook のアカウント名は「ギヴアンドテイク」です。このグループの目的は、いらなくなった物や使わなくなった物を投稿して、その物を欲しい人、必要としている人にあげる場を提供することです。対象者は山口大学に在籍する学生に限定しました。使い方としては、不必要になった物の写真を載せて、その物の説明を書き、未開封であれば食べ物も対象としました。その際は賞味期限も記載してもらおうようにします。言語は基本的に日本

語ですが、山口大学の留学生もグループに入っているため、可能であれば英語、中国語での説明も載せてもらうようにしています。その投稿を見て、欲しいと思った人が投稿にコメントをし、その後は投稿者がコメントをした人とやり取りを個別にしてもらい、投稿した物の受け渡しまでしてもらいます。この受け渡しにおいて金銭の授受を発生させてはいけません。この企画を既に取り入れていた大分県の立命館アジア太平洋大学の活動を先行事例として参考にしました。

運営は1月14日月曜日より約1か月間行いました。告知方法として、まず山口大学の学生が多く登録している「もりフォメ (MORI-info)」というアプリを利用することにしました。「ギヴアンドテイク」運営前に「もりフォメ」で広告と説明文章を流してもらい、事前の告知を行いました。「もりフォメ」は留学生も登録していたため、告知後は山口大学の学生のみならず留学生からの参加リクエストもいくつかきました。また、留学生が住んでいる「YUシェアハウス」内のLINEグループにも告知してもらい、「もりフォメ」を追加していない留学生にも宣伝を広めました。結果として登録者数は25名で、投稿はいくつかありましたが、多くの人が利用してこの仕組みが上手く循環していくことに達することができませんでした。

③ 改善点と提案

この活動を振り返ってみて、反省点は三つあります。まずは認知度の低さです。告知はしていましたが、LINE内での告知だけだったため、ポスターを設けたり直接ビラを配ったりの宣伝が足りていませんでした。そのため、予想よりもグループへの参加リクエストが少なく、活発な活動が行えませんでした。次に、運営時期に問題があったと考えます。留学生が留学を終えて帰国する時期ではなく、冬休み明けに行ってしまったため、不必要な物があまり出なかったと考えています。こちらの都合ではなく利用者側の都合を考慮して運営を行うべきだったと思っています。最後に、参加者がどのようなサービスを求めているかの事前調査の不足です。先行事例を調べて、実際にその大学に通っており、サービスを使っていた知人に話を聞いて模倣して運営したのですが、山口大学の学生のニーズに沿ったサービス内容であったかは不確かでした。しかし、事前アンケートを行った際に、このようなサービスがあると使いたいと思うと答えた人が多かったです。認知度を広げ多くの学生が利用できるようになれば山口大学の学生にとってわざわざ買わなくても譲ってもらえる場となり、また山口市にとってもゴミが減ると考えられるので、この仕組みを山口大学に取り入れるべきだと思います。

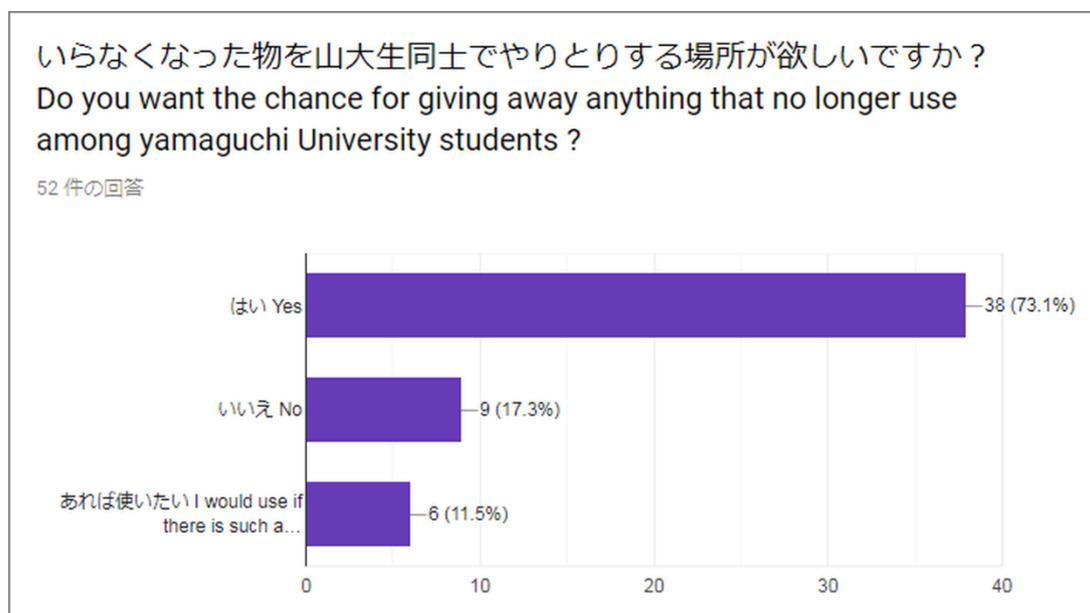


図6 「ギヴアンドテイク」実施前アンケート結果